

米国農務省穀物等需給報告(2021年5月12日発表のポイント)

令和3年5月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、5月12日(現地時間)、2021/22年度の1回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2021/22年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 27億9,036万トン(対前年度比 2.7%増)
- ② 消費量: 27億9,138万トン(対前年度比 1.7%増)
- ③ 期末在庫量: 7億8,385万トン(対前年度比 0.1%減)
期末在庫率: 28.1%(対前年度差 0.5ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、豪州やカナダで減産となるものの、EU や英国等で増加し、米国でも冬小麦の生産量が増加すること等から史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国等で飼料用需要が減少するも、英国や EU で増加することから、史上最高となる見通し。なお、中国の輸入量はわずかに減少し、期末在庫量は減少する見通し。一方、ロシアは世界一位の輸出国となる見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度をわずかに上回る見通し。

- ① 生産量: 7億8,898万トン(対前年度比 1.7%増)・・・EU、英国、ウクライナ、アルゼンチン等で増加、豪州、カナダ等で減少
- ② 消費量: 7億8,868万トン(対前年度比 1.0%増)・・・英国、EU 等で増加、中国等で減少
- ③ 期末在庫量: 2億9,496万トン(対前年度比 0.1%増)・・・ロシア等で増加、中国、米国等で減少
期末在庫率: 37.4%(対前年度差 0.3ポイント減)

とうもろこし : 世界の生産量は、米国で収穫面積が増加することに加え、ブラジルや中国で増産となること等から、史上最高となる見通し。世界の消費量は米国や中国の需要の増加等で前年度より増加する見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度より増加する見通し。なお、米国の需給は、生産量が増加し、飼料用、エタノール向け需要とも増加するが、輸出量が減少するため、期末在庫量は増加し、期末在庫率は10.2%と前年度より上昇する見通し。

- ① 生産量: 11億8,985万トン(対前年度比 5.4%増)・・・米国、ブラジル、中国、ウクライナ、アルゼンチン、EU 等で増加
- ② 消費量: 11億8,108万トン(対前年度比 2.8%増)・・・米国、中国、EU、ブラジル等で増加
- ③ 期末在庫量: 2億9,230万トン(対前年度比 3.1%増)・・・米国、ブラジル等で増加
期末在庫率: 24.7%(対前年度差 0.1ポイント減)

コメ(精米) : 世界の生産量は、インド等で減少する一方、中国やタイで増加することから史上最高となる見通し。世界の消費量は中国やインド等で増加することから史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を下回ることから、期末在庫量は前年度より減少する見通し。

- ① 生産量: 5億545万トン(対前年度比 0.4%増)
- ② 消費量: 5億1,335万トン(対前年度比 1.6%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億6,802万トン(対前年度比 4.5%減)・・・中国、インド等で減少
期末在庫率: 32.7%(対前年度差 2.1ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、ブラジルで史上最高となり、米国でも増加することから史上最高となる見通し。一方、世界の消費量は、中国等で増加することから、前年度より増加する見通し。世界の生産量が消費量を上回り、期末在庫量は前年度より増加する見通し。なお、米国の需給は搾油量が増加も、輸出量が減少し、期末在庫量は増加する見通し。

- ① 生産量: 3億8,553万トン(対前年度比 6.2%増)・・・ブラジル、米国、アルゼンチン等で増加
- ② 消費量: 3億8,078万トン(対前年度比 3.1%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 9,110万トン(対前年度比 5.3%増)・・・中国等で増加
期末在庫率: 23.9%(対前年度差 0.5ポイント増)

大臣官房政策課食料安全保障室 西内、安齋、松原 (03-6744-2368)

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2021年5月12日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		(参考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)		前月差
全体							
生産量		2,674.12	2,717.08	2,790.36	2.7%	—	2,295.7
消費量		2,674.72	2,743.79	2,791.38	1.7%	—	2,284.3
期末在庫量		811.58	784.87	783.85	▲ 0.1%	—	480.7
期末在庫率		30.3%	28.6%	28.1%	▲ 0.5	—	21.0%
小麦							
生産量		764.16	776.10	788.98	1.7%	—	660.5
消費量		748.80	780.87	788.68	1.0%	—	680.0
期末在庫量		299.44	294.67	294.96	0.1%	—	181.9
期末在庫率		40.0%	37.7%	37.4%	▲ 0.3	—	26.7%
粗粒穀物							
生産量		1,412.39	1,437.45	1,495.94	4.1%	—	1,159.1
消費量		1,429.56	1,457.51	1,489.35	2.2%	—	1,139.4
期末在庫量		334.35	314.28	320.87	2.1%	—	175.8
期末在庫率		23.4%	21.6%	21.5%	▲ 0.0	—	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,117.16	1,128.46	1,189.85	5.4%	—	898.8
消費量		1,134.81	1,149.41	1,181.08	2.8%	—	877.3
期末在庫量		304.48	283.53	292.30	3.1%	—	144.8
期末在庫率		26.8%	24.7%	24.7%	0.1	—	16.5%
コメ(精米)							
生産量		497.57	503.53	505.45	0.4%	—	476.1
消費量		496.36	505.41	513.35	1.6%	—	464.8
期末在庫量		177.79	175.92	168.02	▲ 4.5%	—	123.0
期末在庫率		35.8%	34.8%	32.7%	▲ 2.1	—	26.5%

【大豆】

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		(参考) 2012/13	
				(予想)	前年度比		前月差
生産量		339.42	362.95	385.53	6.2%	—	269.0
消費量		357.37	369.33	380.78	3.1%	—	265.2
期末在庫量		96.52	86.55	91.10	5.3%	—	58.1
期末在庫率		27.0%	23.4%	23.9%	0.5	—	21.9%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 12, 2021)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2021年5月12日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22 (予想)	2021/22		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		417.89	431.48	453.58	5.1%	—	353.0
消費量		355.83	351.29	358.64	2.1%	—	317.1
輸出货量		79.77	107.70	98.71	▲ 8.3%	—	51.6
期末在庫量		80.73	59.81	63.35	5.9%	—	44.2
期末在庫率		18.5%	13.0%	13.9%	0.8	—	12.0%
小麦							
生産量		52.58	49.69	50.95	2.5%	—	61.3
消費量		30.56	30.55	32.52	6.4%	—	37.8
輸出货量		26.28	26.26	24.49	▲ 6.7%	—	27.5
期末在庫量		27.99	23.72	21.05	▲ 11.3%	—	19.5
期末在庫率		49.2%	41.8%	36.9%	▲ 4.8	—	29.9%
粗粒穀物							
生産量		359.43	374.57	396.17	5.8%	—	285.3
消費量		320.68	315.72	321.16	1.7%	—	275.5
輸出货量		50.51	78.55	71.42	▲ 9.1%	—	20.7
期末在庫量		51.83	34.73	41.00	18.1%	—	23.5
期末在庫率		14.0%	8.8%	10.4%	1.6	—	7.9%
とうもろこし							
生産量		345.96	360.25	380.76	5.7%	—	273.2
消費量		309.51	307.23	312.82	1.8%	—	263.0
輸出货量		45.17	70.49	62.23	▲ 11.7%	—	18.5
期末在庫量		48.76	31.93	38.28	19.9%	—	20.9
期末在庫率		13.7%	8.5%	10.2%	1.8	—	7.4%
コメ(精米)							
生産量		5.88	7.23	6.46	▲ 10.7%	—	6.3
消費量		4.59	5.02	4.95	▲ 1.4%	—	3.8
輸出货量		2.99	2.89	2.79	▲ 3.5%	—	3.4
期末在庫量		0.91	1.36	1.30	▲ 4.4%	—	1.2
期末在庫率		12.0%	17.2%	16.8%	▲ 0.4	—	16.1%

【大豆】

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22 (予想)	2021/22		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		96.67	112.55	119.88	6.5%	—	82.8
消費量		61.77	62.47	63.81	2.1%	—	48.6
輸出货量		45.78	62.05	56.47	▲ 9.0%	—	36.1
期末在庫量		14.28	3.25	3.81	17.2%	—	3.8
期末在庫率		13.3%	2.6%	3.2%	0.6	—	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 12, 2021)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物の価格動向 (2021年)

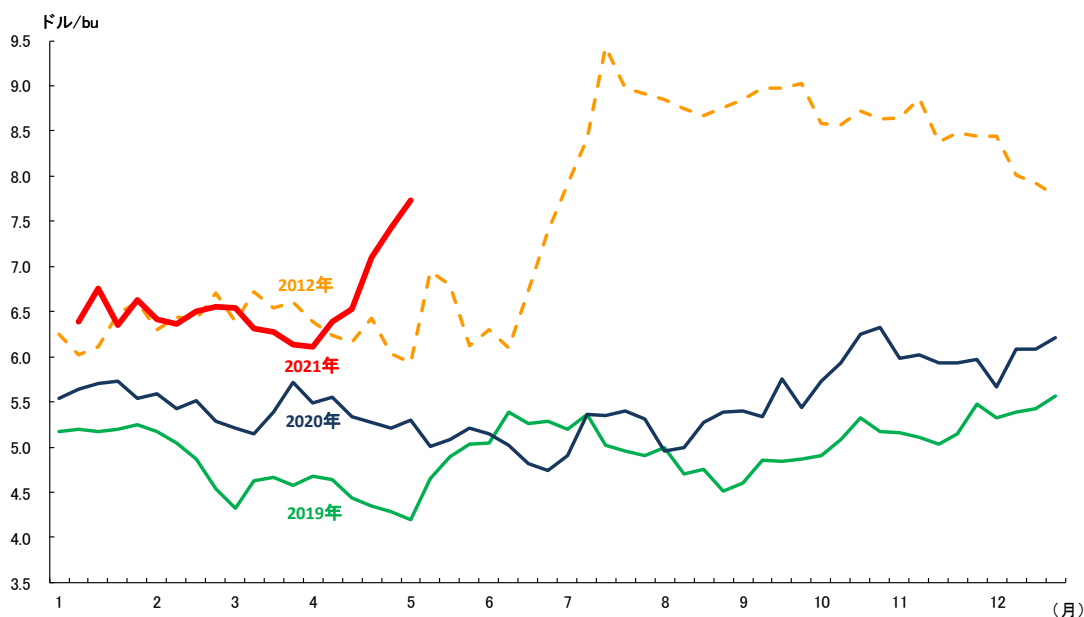
- 小麦 : 7.74 ドル/bu (前年同時期の価格 : 5.22 ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における2021年5月第1週末(セツルメント))。

2021年1月に入り、大豆やとうもろこしの価格上昇や1月米国農務省穀物等需給報告で世界や米国の期末在庫量が下方修正されたことから6ドル/bu 台後半に値を上げた。1月下旬にかけ、米國小麦生産地の降雨予報等から一時6ドル/bu 台前半に値を下げたものの、ロシアの3月からの輸出税の拡大等から、1月末に6ドル/bu 台半ばに値を上げた。

2月に入り、一時、米国冬小麦生産地帯でのスノーカバー不足の影響懸念から値を上げたものの、2月米国農務省穀物等需給報告で米国産の在庫が据え置かれたこと等から6ドル/bu 台前半に値を下げた。2月下旬にかけ、黒海地域や引き続き米国の主産地での寒波の影響懸念から、6ドル/bu 台後半に値を上げたものの、輸出が低調となり、2月末に6ドル/bu 台半ばに値を下げた。

3月に入り、上旬は米国冬小麦地帯の記録的な寒波と乾燥天候による影響懸念に下支えされたが、3月中旬以降、米国冬小麦生産地での降雨による作柄改善見通しやドル高の影響から、6ドル/bu 前後に値を下げた。その後、月末には、米国作付意向面積結果を受けたとうもろこし、大豆の価格上昇に追随し6ドル/bu 台前半に値を戻した。

4月に入り、米国の春小麦地帯、冬小麦地帯の乾燥による影響懸念や、カナダの作付け意向面積の減少等から値を上げ、4月末現在7ドル/bu 台半ばで推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

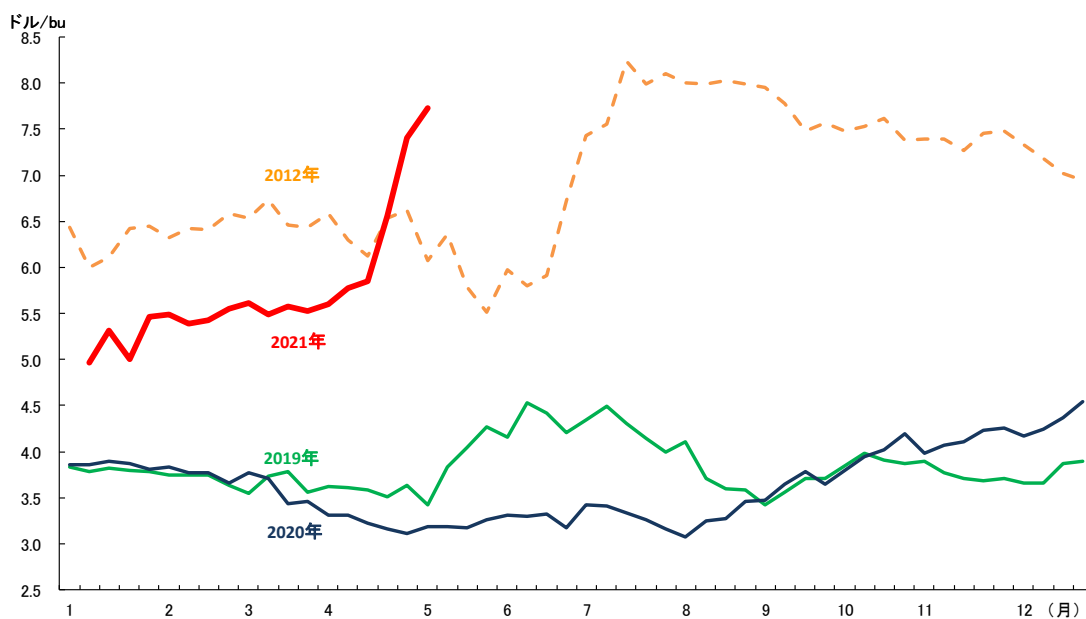
- とうもろこし：7.73 ドル/bu （前年同時期の価格：3.12 ドル/bu）
（価格は、シカゴ商品取引所における2021年5月第1週末（セツルメント））。

2021年1月に入り、アルゼンチンのとうもろこし輸出停止の発表とストライキ、順調な米国産とうもろこしの輸出、1月米国農務省穀物等需給報告での米国や南米の生産量の下方修正等から5ドル/bu 台前半ばまで値を上げた。その後、南米の降雨による作柄改善期待等から1月下旬に一時5ドル/bu 前後に値を下げたものの、好調な中国向け輸出から、1月末に5ドル/bu 台前半ばまで値を上げた。

2月に入り、中国向け好調な米国産の輸出が下支えしたものの、2月米国農務省穀物等需給報告で米国産の在庫予測が市場予想を上回ったこと等から5ドル/bu 台前半に値を下げた。その後、ブラジルの冬とうもろこしの作付遅延等に支援され、2月末に5ドル/bu 台前半ばに値を上げた。

3月に入り、米国産とうもろこしの中国向けを中心とした順調な輸出の一方、南米の天候の改善から、5ドル/bu 台前半ばで推移した。3月下旬に一時ドル高等から5ドル/bu 台前半に値を下げたものの、月末には、予想を下回る米国作付意向面積から、5ドル/bu 台前半ばに値を戻した。

4月に入り、好調な輸出需要とエタノール需要の回復、米国中西部の低温やブラジルの乾燥天候による冬とうもろこしへの影響懸念等から値を上げ、4月末現在7ドル/bu 台前半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

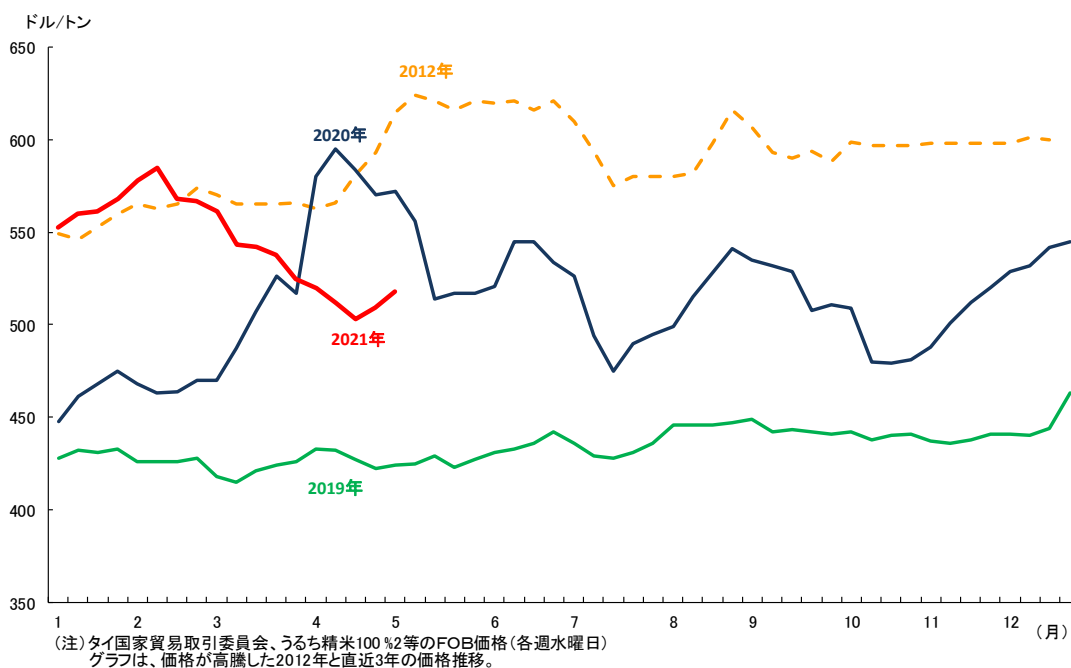
●コメ：518ドル/トン（前年同時期の価格：556ドル/トン）
 （価格は、タイ国家貿易取引委員会における2021年5月の第1水曜日のFOB価格。）

2021年1月以降、輸出用コンテナ不足による船積みの遅延から新規需要が低下したものの、バーツ高やバルク船等への輸送手段の切替えの予定等から、1月下旬に、560ドル/トン台後半に値を上げた。

2月に入り、遅延していた船積みの開始による貿易業者のコメの調達から580ドル/トン台半ばにさらに上昇したものの、アジア諸国の旧正月で輸出が低調となったことや、乾季米の流通期待から2月下旬には560ドル/トン台前半値を下げた。

3月に入り、乾季米の収穫進展とともに新穀の市場流通が始まったことによるコメ価格の低下や海外需要が落ち着いていること、タイバーツ安から3月下旬には520ドル/トン台半ばに値を下げた。

4月に入り、乾季米の収穫の進展・市場流通と新型コロナウイルス感染症拡大による消費の減退等によるタイ国内米価格の低下や旧正月を控えた低調な輸出需要から更に値を下げ、4月下旬現在、500ドル/トン前後で推移。



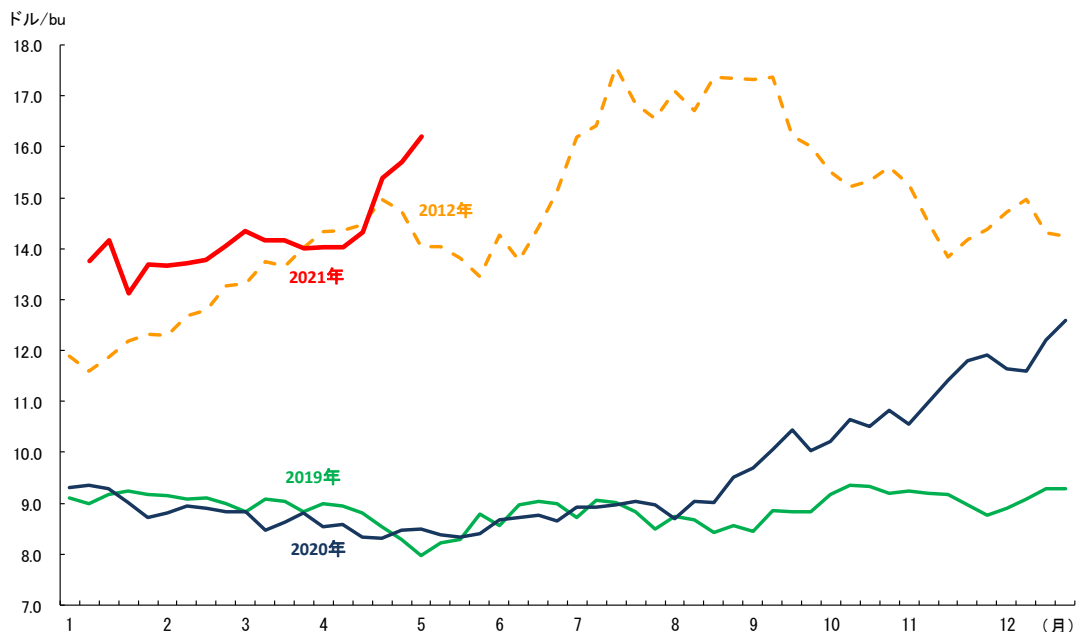
● 大豆：16.21ドル/bu（前年同時期の価格：8.47ドル/bu）

（価格は、シカゴ商品取引所における2021年5月第1週末（セツルメント））。

2021年1月に入り、順調な米国産大豆の中国向け輸出、1月米国農務省穀物等需給報告での米国やアルゼンチンの生産量の下方修正等から14ドル/bu台半ばまで値を上げた。その後、南米の降雨による作柄改善期待から1月下旬に13ドル/bu台前半に値を下げたものの、好調な中国向け輸出やブラジルの収穫遅延懸念から、1月末に13ドル/bu台後半に値を上げた。

2月に入り、好調な中国向け米国産の輸出から一時14ドル/bu前後に値を上げたものの、2月米国農務省穀物等需給報告で南米の生産見通しが据え置かれたこと等から、13ドル/bu台半ばに値を下げた。その後、ブラジルの収穫が開始されたものの、降雨による収穫遅れやアルゼンチンの乾燥懸念等により3月上旬に14ドル/bu台半ばに値を上げたものの、南米の天候改善等から13ドル/bu後半に値を下げた。3月中旬にかけ、堅調な大豆油需要から一時14ドル/bu前半に値を上げたものの、輸出需要が低調となり13ドル/bu台半ばに値を下げた。その後、月末には、予想を下回る米国作付意向面積から14ドル/bu台前半に値を戻した。

4月に入り、米国農務省需給報告でのブラジル産の豊作見込みも、米国中西部での低温による影響懸念等から値を上げ、4月末現在15ドル/bu台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
108.75	110.36	111.21	111.66	109.83	108.06	108.22	106.27	107.41	108.12	108.86
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
109.18	109.34	109.96	107.29	107.93	107.31	107.56	106.78	106.04	105.74	105.24
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
104.40	103.82	103.70	105.36	108.65	109.13					

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
45.25	40.00	40.80	41.75	41.25	39.75	51.13	50.56	51.02	45.78	37.60
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
37.68	39.40	36.42	35.87	31.16	28.95	34.73	42.25	45.15	40.86	41.51
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
40.94	42.39	46.28	52.33	55.71	56.55					

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

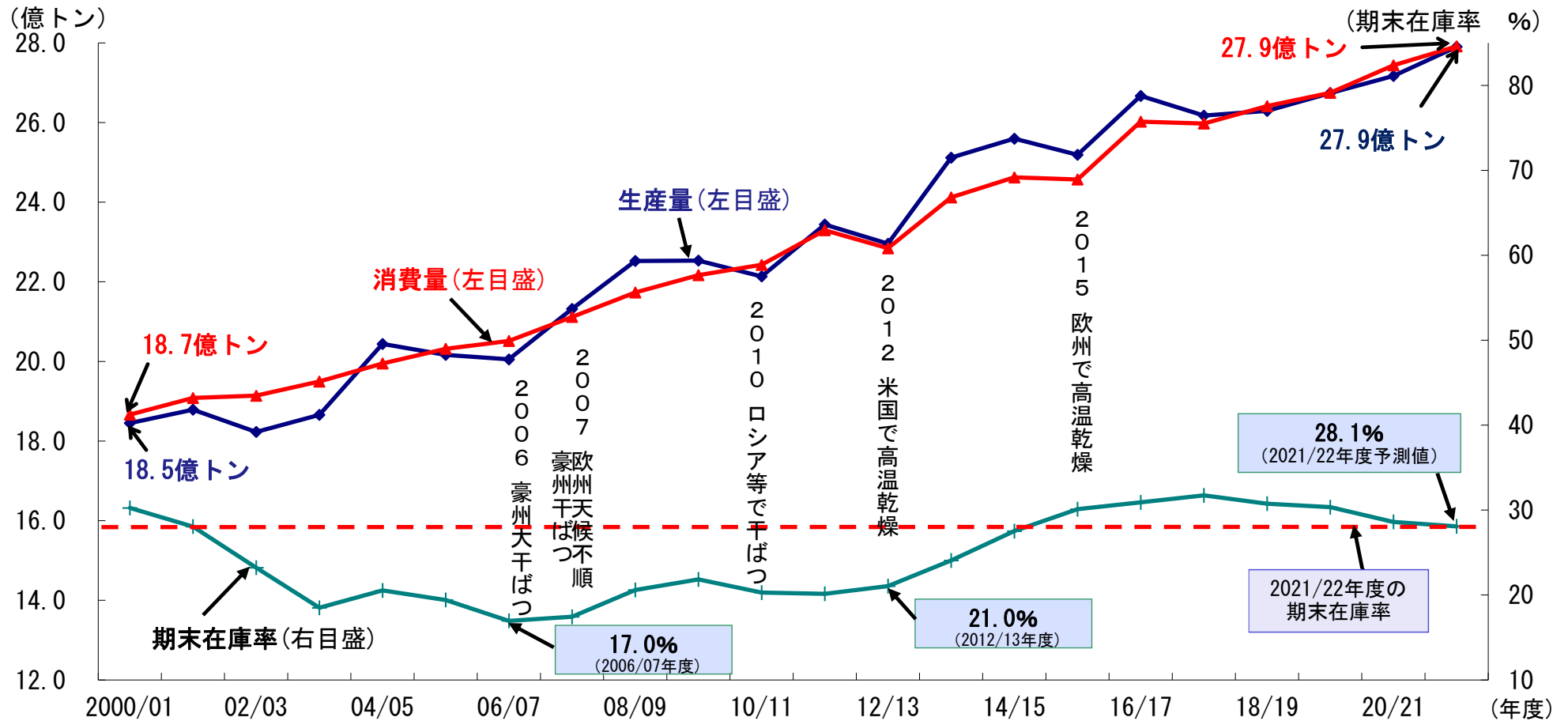
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.85
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
51.55	54.98	58.17	63.87	60.87	54.71	57.55	54.84	56.97	54.01	57.07
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
59.80	57.53	50.54	30.45	16.70	28.53	38.31	40.77	42.39	39.63	39.55
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
41.35	47.07	52.10	59.06	62.36	61.72					

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和3年4月, 120頁
但し、2021年4月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum
Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.1%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 2021)、「PS&D」
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。